

## 中央高校での11年間を振り返って

教諭 大津 富士子

昭和58年4月1日に採用されて以来、中央高校を含む4校の県立高校で38年間勤務しました。今、ここに1つの区切りをつける時を迎え、時の流れを振り返り、この間、様々な場面で支えてくださった皆様方に感謝の気持ちで一杯です。特に最後の11年間は中央高校で、何事にも意欲的な先生方とともに素直で元気な生徒たちと過ごすことができたことは、私にとって、大変幸運なことでした。

私が中央高校に赴任した平成20年当時は人文、理数、体育、国際の4つのコース制がとられていてそれぞれに特色のあるカリキュラムがありました。私が担当した2学年の英語では、習熟度別の授業が実施されていました。放射状にのびる校舎で授業をする教室の位置をおぼえるのに時間がかかりました。配属された渉外部では関東高P連の開催県という年で、幹事校である中央高校のチーフとして仕事をする機会を得ました。準備のための会合は牛久で行われることが多く、中央高校は県南地区の高校であるのだと気づかされました。このように人をまとめる仕事をした経験はそれまでなかったので、大変なこと（授業交換のしにくい習熟度別の授業に不在が多くなり生徒の厳しい視線を感じることもありました）もありましたが大変良い経験をさせていただいたと思います。この年、2学年の修学旅行で台湾に引率したことも他校ではできない経験でした。

2年目になり、渉外部ではPTAが主体となるエアコン設置に向けて保護者の意向を伺うアンケートを実施し、臨時PTA総会を開催して翌年の普通教室エアコン設置が決定しました。2年続きで2学年の副担でしたが、この年の修学旅行はグアムへ行き、引率できる人数が少ないこともあり、私は引率に入りませんでした。他の県立高校ではあまりない取り組みだったと思います。

赴任3年目の平成22年度は私個人にとって大変大きな決断を迫られた年でした。学年主任をされていた先生が他校へ異動になり、3学年の主任を打診されたのです。その学年は1年から2年に上がる時にも主任が変わっており、人事の計画性に疑問を抱きながらも、副主任であった私が引き継ぐのが自然であると覚悟しました。進路に向けての大切な1年間をまず事務手続のミス等が無いよう注意を払うことを第一に考えました。力不足の学年主任ではありましたが、熱意あふれる担任団と新たに経験豊富な副担の先生方を迎えて、何とか1年間を乗り切ることができました。現在の「中央メソッド」と呼ばれる指導体制はまだありませんでしたが、当時から進学、就職に向けて集中的に指導する体制があって、それぞれの生徒に必要な指導を行うため、十分に時間がとられていました。その結果、5名が国立大学に合格、進学しました。この年、一番対応が難しかったのは、生徒指導の「段階的指導」に関することでした。2ヶ月の試行期間を経て6月から導入された「段階的指導」に対しては、それまでの2年間と全く違うルールに生徒も保護者もとまどい、電話口で長時間説明を続ける担任の先生方の姿をたびたび見かけました。これを乗り越えて中央高校が良くなることを願い、学年が一丸となって生徒の反発にも対応しました。「段階的指導」が定着した今、あの時期のことを思うと大変感慨深いものがあります。

色々なことがありましたが、卒業式を無事終え、学年主任としての務めをどうにか果たせたと安堵したのもつかの間、3月11日の震災に見舞われました。次年度から小川高校の閉校に伴って1学級増になること、体育コースを除いてコースごとではないくり募集となること、変わり目の年に合格者説明会も開催できないまま入学式を迎えることになりました。

平成23年は震災のため入学式後にクラスを決定するなど試練の幕開けでしたが、包容力のある学年主任と新しく赴任された先生方も交えた力強い新学年団で諸事に対応していきました。3年間この学年の副担を務めました。個性的な生徒も多く、活気のある学年で、特進クラスの授業や課外は楽しみでした。卒業時には国公立大学合格者が前年に続き10名と素晴らしい結果でした。

平成26年からの3年間は特進クラスの副担として、大学進学へ向けたクラス環境作りに力を入れる担任をサポートする立場でした。特別なことはできませんでしたが、授業の中で少しずつ入試を意識した項目を取り入れたり、課外で励ましたり、学習指導がやりがいのあるものでした。茨城大学の推薦入試に英語の問題が導入され、中央生にとっては条件が厳しくなりましたが、受験する生徒と向き合って充実した日々を過ごすことができました。結果は国立大学4名合格でした。この年の卒業生ではありませんが、毎年行われる卒業生との懇談会で、ある卒業生が「私は、志望校には合格できませんでしたが、合格を目指して勉強をつづけたことに何一つ悔いはありません」と言い切ってくれたのです。この言葉を聞いたとき、私たち教員の仕事の本質をあらためて知った気がしました。あの卒業生は、志望校への入学はかなわなかったけれど、きっと別の大学で意欲的に学んで、夢の実現をめざしてくれるのだと思います。

中央高校最後の年、平成30年度も特進クラスの副担でした。36人がそれぞれの個性を出しながら、文化祭やクラスマッチではリーダーを中心によくまとまっていました。3年生になる年に退職となり、大変残念ですが、皆がああ先輩のように「やりきった」という思いで、そして志望校合格を果たして卒業できますよう遠くから応援したいと思います。

赴任4年目の平成23年度から平成30年度まで8年間渉外部長を担当しました。歴代のPTA会長様をはじめ本部役員の方々には大変お世話になり、何とか無事務めることができました。各学年、専門委員の委員の皆様、各支部長の皆様方にもお忙しい中ご協力をいただき、活動を続けることができました。

お一人、お一人にお目にかかってご挨拶申し上げることはできませんが、ここに、皆様のご支援、ご協力に対し厚く感謝申し上げます。昨今、世の中に様々な変化が見られますが、どうぞ今後とも保護者の皆様と学校と力強く手を携えて、生徒たちを見ていていただきたいと願っております。

中央高校が、ますます素晴らしい学校になりますように。